

IMF ダイレクト・ブログ:

アジアの声を聞き、そして、アジアから学ぶ

ドミニク・ストロスカーン

今週はじめ韓国の大田市で、世界がアジアの声を聞き、また 1930 年代以来最も深刻な世界金融危機に対し、アジアがあればほどの耐性を示すことができた背景を学ぶ、素晴らしいイベントが開催されました。7 月 12・13 日の両日、各国の政府当局者や経済学者、銀行関係者や、アナリスト、そして報道陣など 1,000 人以上が参加して、韓国政府と IMF 共催の会議 [アジア 21：未来への展望](#) が開かれました。私自身も、世界経済におけるアジアの高まり続ける役割と、アジアにおける世界経済の高まり続ける役割について、多くを学ぶことが出来ました。世界が世界危機からの脱却を試みるなか、経済の中心はますます東に移動しており、アジアの役割がこれまで以上に重要になっています。

この会議は、韓国の素晴らしい支援を受けて開催に至りましたが、開催にあたり我々は 3 つの目標を掲げました。

- 危機の間のアジアの経験から得られる教訓、及びそれに基づいた他の地域への教訓について意見を交わす。
- 世界経済政策におけるアジアの新たなリーダーとしての役割を学ぶ - 今年は韓国が、新興市場国として初めて G20 の議長国をつとめています、これがその良い例でしょう。
- アジアと IMF の関係を再構築する。アジアと IMF の関係は、10 年以上前に遡るアジア危機にまつわる記憶のマイナスの影響の下にあります。

では、これら 3 分野において我々は何を学んだのでしょうか。

1. **頑健なアジア経済。** 大田市では、アジアは危機から脱出する過程において、経済の中心地として浮上したという点で意見が一致しました。アジアは、当初大きな打撃を受けたにもかかわらず、速いペースで回復を成し遂げ、力強い成長軌道に回帰することができました。2010 年には、世界経済が 4.5%、そして欧州は約 1.5% の経済成長が予測される中、アジアは 7.75% の成長が見込まれています。何故、アジア経済はこのように頑健なのでしょう。これまで 10 年に渡り、マクロ経済、金融、そして企業部門と広範な改革が実施されてきたことが、この答えのひとつであることは間違いありません。これらの改革は、アジア危機の間に痛みを伴いつつも開始されたものですが、これ以後も継続されており、アジアが危機の打撃を耐えることができたのは、これらの影響があったことは疑う余地はないでしょう。これは、世界の他地域への教訓だといえます。

アジアは、今後の課題についても油断していません。今後を見据え、アジアの政策当局者や専門家が、輸出という彼らの明らかな強みを超えた、国内投資と消費に基盤をおいた「成長の第二のエンジン」の構築を継続しなければならないと認識していることに、私は感銘を覚えました。欧州や米国などアジアの主要貿易相手の一部が、比較的低成長な時代に突入しつつあるようだという事を踏まえると、特にこれは重要だといえます。

アジアが 21 世紀において今後も進歩していくためには、アジアの貧困と不平等という大きな問題が解決されなければならないという話し合いが、会議でのアジアのビジネスリーダーの間も含め、数多く行なわれました。会議の大半の参加者が、今日のアジアの低所得国は、世界の「次世代」の新興市場になるという点に確信を持っていたことを、興味深く感じました。これらの貧しい国の多くは、開発、成長そして、強調すべき点はこれですが、持続的に資本が流入するための政策を既に実行しています。

2. 世界レベルでの経済政策の構築におけるアジアの新たなリーダーとしての役割。 世界におけるアジアの経済規模が拡大するにつれ、世界の経済政策の場におけるアジアの声と存在感も高まっています。G20 の参加国のうち 6 カ国がアジアの国々ですし、韓国は今年 11 月のソウルでの重要な G20 サミットにむけた準備において、リーダーシップを発揮しています。特に、韓国は、国際金融のセーフティネットの強化をソウルサミットの重要課題と位置づけています。大田市の会議では、G20 サミット韓国大統領特別委員会の司空 壹委員長、そして韓国企画財政部の尹 増鉉長官をはじめとする韓国政府の高官が、国際レベルで流動性の提供を早急に更に行なうことが必要だと強調しました。

会議に出席したアジアの皆さんは、アジアの一層のグローバル化に伴い、他地域からのスピルオーバーの危険が増大していることを強く認識していました。そして今度はこれにより、アジアの力強くバランスの取れた持続的成長を維持するために、アジアは他の主要国の政策に影響を与えるようにならなければなりません。例えば、最近のIMFの分析によると、世界レベルでの政策協調を一層推し進めた場合、一今現在[G20の相互評価プロセス](#)を通して推し進められていますが一、アジアは今後 5 年で、約 2,500 億ドルの更なる成長が見込まれ、1,400 万の雇用が創出される可能性があります。ですから、世界レベルでの経済政策構築において発言力をもつことが、21 世紀における選択肢ではなく、むしろ必要なのだと、アジアの人々は十全に理解しているのです。そして、この面において素晴らしい進歩を遂げていると言えましょう。

3. 進歩を続けるアジアと IMF の関係。 会議の冒頭より、この度の会議がアジアと IMF の新たな関係の礎になることが私の希望でした。我々は、IMF がアジア危機から学んだ教訓について、そしてこれらの教訓が我々の活動にどのような変化をもたらしたかについて、率直にお話しました。協議の中で私は、より焦点を絞ったコンディショナリティー、バランスシートへの影響についての理解を深める、危機における財源の早期提供を増やす、そして経済調整に伴う市民の皆さんの痛みに一層重点を置く、などについて触れました。

IMF への批判やマイナスの記憶が全て消え去ったとはもちろん言いません。しかし、私は、IMF が過去の教訓を学んだことを非常に心強く感じるとともに、これから IMF がアジアのパートナーとして一層効果を発揮するための方策に、焦点をあてる時が来たと申し上げたいのです。

我々の話し合いは、一連の今後の活動を形作る上で役に立ちました。これらにより我々の関係は著しく強化されると確信しています。「[大田市決議](#)」と私が呼ぶこれらの活動は、3 分野を主に重要視しているものです。

(i) **IMF の分析がより有益となり、アジア加盟国に役立つよう取り組みを進めます。** リスクの早期警戒、波及効果の問題や分野横断的なテーマ、そしてマクロ・金融の分野をより一層重視します。加えて、アジアでは、我々の分析やサーベイランス（政策監視）における様々な

国や地域に対する対応は、十全に「公平」ではないとの強い認識があり、私はそれを理解しています。ですから、この分野においても一層の改善が必要です。

(ii) **国際金融のセーフティネットの強化に努めます。**この分野での取り組みにおいては、G20における韓国のリーダーシップを通し、IMFはアジアと緊密に協力しています。我々はアジアの声に耳を傾けており、アジアのニーズがセーフティネットの構築において確実に一層反映されるよう努めます。これまで以上に適した危機防止制度や、複数国を対象としたアプローチをはじめとした、危機の防止そしてシステミックなショックの軽減を支える、我々の融資ツールの強化に向けた複数の施策を検証しています。これらのツールは、ショックを防ぐための各国の取り組みを効果的に補うものになると期待されますが、同時に地域レベルの融資メカニズムとの連携も考えられるかもしれません。大田市では、この「グローバルなセーフティネット」について多くの議論が交わされましたが、このコンセプトに多くの賛同があったと私は思っています。

(iii) **世界経済におけるアジアの役割と発言権の一層の強化を支援します。**第一に、これは、アジアのIMFにおける議決権を拡大する、いわゆる「クォータ（出資割当額）」の改革パッケージを完了することで達成することが出来ます。私は、これがソウルサミットまでに完了されることを期待しています。さらに、IMFはアジアの地域組織との連携を強化し、適切な場合は、ますます増加する、アジアの地域的或いは世界的な協調努力の促進を支援したいと考えています。

韓国では、李大統領とG20について協議する機会に恵まれました。また、アジアから集まった「アジアの未来」である若い学生の皆さんともお会いすることができました。このような話し合いや、会議の場においても、アジアの皆さんがIMFに対し、より一層のオーナーシップを見て取る日が来ることを、そして、IMFがアジアの利益に貢献していることを望んでいとお伝えしました。実は、私がアジアの皆さんにIMFを「第二のホーム」だと認識してもらいたいという希望を述べましたところ、アジアの一人の同志からは、アジアもIMFの第二のホームになることができるだろうとの返事が返ってきたのです！

私はこれが一晩で実現するとは思っていません。しかし、私の考えでは、IMFはこの実現にむけあらゆる努力をする用意がありますし、アジアの同志の皆さんにも同様のことを勧めました。アジアとIMFの協力は、両方向なものになって初めて効力を発揮します。この度の会議は、この点における我々双方の課題を間違いなく前進させたのです。

新しいアジアが誕生したように、新しいIMFが誕生したのです。

2010年7月15日、iMFdirectに掲載



ドミニク・ストロスカールン：国際通貨基金（IMF）専務理事。前職は、フランス国民議会議員、及びパリ政治学院経済学教授。2001年から2007年の間で、国民議会議員に3度当選。2006年には、フランス大統領選挙の社会党候補者に立候補。1997年から1999年まで、同国の経済・財政・産業大臣を務める。